



若ものは魚食をどう考えるか

よろしく

12月13日金曜日、石垣記念ホール（港区赤坂1丁目9-13 三会堂ビル9階）において、平成25年度国産水産物流通促進事業第2回シンポジウム「若ものは魚食をどう考えるか」を開催致します。

「若もの」ということばの定義には定まったものが見つかりません。高校生・大学生といった学齢層を対象とする場合や、少年法上の少年期を過ぎた20歳から29歳ごろまでの者を指す場合、厚労省調査資料では15～25歳ごろまでとする例もあるようですが、今回のシンポジウムでは大学生の方々に登場いただきます。

若もの世代は、進学のために親元を離れ、就学の中で学術研究を行う中、卒業後の将来への展望を考えるなど、個人生活、人生思考に変化・変動が最も大きな世代と言う位置づけが出来ます。このような時間経過、心理環境を持つ若ものが、健康や社会的課題を考える中、“魚食”を課題に意見の交流を図り、現代の若もの消費市場へのアクセスの参考にしたいと思います。

プログラムは、第一部で基調講演として、「食を教える教育」から「食を意識する教育」へと呼びかけ、まずは食を感じる教育が必要であると言われておられる学習院女子大学国際交流文化学部日本文化学科・環境教育センター、農学博士でもある品川明教授に、続いて、元大手量販店社員として鮮魚部門を担当、現在はマーケティングコンサルタント業を自営され、量販店、個人営業店などへの経営コンサルタントとして活躍されている有限会社フード・サポート細川良範代表取締役にお話し頂きます。

第二部では、「若ものスピーチとパネルディスカッション」として、討論・意見交流を行ないます。コーディネーターは、水産業、水産物消費、市場動向に詳しい東京海洋大学海洋科学部海洋政策文化学科の馬場治教授にお願い致します。

若ものスピーチは、①東京海洋大学より“水産と魚食”をスピーチ課題として、②東京農業大学より“農の視点から漁を見る”、③学習院女子大学より“食の意識と魚食”、④女子栄養大学より“栄養と魚食”、⑤日本女子大学より“魚食を考える力”を課題にスピーチをお願いし、それぞれの視点から若もの討論を致します。

【プログラム】

第2回国産水産物流通促進事業シンポジウム

「若ものは魚食をどう考えるか」

1. 開催日：平成25年12月13日（金）
2. 会場：石垣記念ホール（東京都港区赤坂1丁目9-13 三会堂ビル9階）
3. 主催：一般社団法人大日本水産会（国産水産物流通促進センター構成機関）
4. 後援：東京都栄養士会、全国学校栄養士協議会、JF全漁連などを予定
5. プログラム：
 - 13:30 主催者あいさつ
 - 13:40 事務局より
 - 13:45 第一部 基調講演
 - (1) “あふれる食の中の食意識の重要性”
(食を考える意識の重要性に触れてお話をされます)
学習院女学院大学国際交流文化学部 日本文化学科・環境教育センター
農学博士・教授 品川 明氏
 - (2) “食品売り場の魚食思考”
(売る側の立場の方々が、どのように魚食を思考し、店頭対応を考えているのか、に触れて売りの立場からの魚食に触れられます)
有限会社フード・サポート代表取締役 細川 良範氏
 - 14:45 休憩
 - 15:00 第二部 「若ものスピーチとパネルディスカッション」
 - (1) 若ものスピーカー
東京海洋大学院 阿高 麦穂氏
東京農業大学 能宗 桃子氏（または、鈴木 基弘氏）
学習院女子大学 山岸 彩乃氏
女子栄養大学 高橋 花凜氏
日本女子大学 吉満 雅乃氏
 - 15:50 (2) パネルディスカッション
コーディネーター 東京海洋大学海洋科学部（漁業経済学）
馬場 治教授
パネラー 若ものスピーカー
 - 17:00 閉会
(閉会后会場ロビーで懇親会)

《講演者紹介》

- ・学習院女子大学国際交流文化学部教授 品川 明氏

東京大学大学院修了、農学博士でもあり、日本文化学科・環境教育センターにてフードコンシャスネスプロジェクト、コミュニケーション、科学教育、環境教育をご担当。「食」はあつて当たり前と言う物の豊かさの近年、自分が口にしているもの、その味わいに無意識感が漂っていることに危機感を抱いておられ、食を意識、感じる教育が必要とフードコンシャスネスを宣言。食の辺縁にある学びの機会、智慧、伝統に培われた奥深さを持つ機会が必要ではないかと、食を教える教育から食を意識する、食を感じる教育が必要だと訴えられておられる。

- ・有限会社フード・サポート代表取締役 細川良範氏

北海道生まれ、帯広畜産大学卒業後株式会社ダイエーに入社、鮮魚部門バイヤーなどを歴任。1982年独立、マーケティングコンサルタント業を開業、2002年から2005年の3カ年は株式会社ヤオコーの鮮魚部長として再び現場体験。その後水産製造、卸売業を対象に販売・経営助言を行うコンサルタント業に復帰。消費者嗜好を発信源とする水産物消費、流通促進に取組み、地に足をつけた現実発信の商品開発、販売体制を呼びかけておられる。

《コーディネーター紹介》

- ・東京海洋大学海洋科学部 馬場 治教授

高知県生まれ、1984年東京大学大学院農学系研究科博士課程修了、現在、東京海洋大学海洋科学部教授。漁業管理の制度や実態、漁業経営、水産物流通など、水産業の社会経済的側面に関する教育研究に携わる傍ら、農林水産省独立行政法人評価委員会農業分科会専門委員、東日本大震災復興構想会議検討部会専門委員等公務多忙に加え、本年度は、水産庁養殖事業経営力強化施策検討の有識者会議「養殖業のあり方検討会」の座長も務められています。

《若ものパネリスト紹介》

- | | |
|--|--------|
| ・東京海洋大学大学院海洋管理政策学専攻 | 阿高 麦穂氏 |
| ・東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科4年 | 能宗 桃子氏 |
| ・東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科3年 | 鈴木 基弘氏 |
| ・学習院女子大学国際文化交流学部国際
コミュニケーション学科フードコンシャスネス研究室3年 | 山岸 彩乃氏 |
| ・女子栄養大学栄養学部実践栄養学科食品生産科学研究室4年生 | 高橋 花凜氏 |
| ・日本女子大学家政学部家政経済学科3年生 | 吉満 雅乃氏 |

(了)

シンポジウム出席申込書

シンポジウム名： 「若ものは魚食をどう考えるか」

開催日時： 12月13日（金）13：30より（開場 13：00）

開催場所： 石垣記念ホール（東京都港区赤坂1丁目9番13号 三会堂ビル9F）

参加希望者： 申込みされる方の氏名、参加人数を以下の表にご記載、ご連絡をお願い致します。席数が限られますので、ご参加できない場合もございますこと、ご了承方お願い致します。

申込日：平成25年 月 日

申込み団体・企業名	
申込者名	
参加人数	
住所または連絡先	
TEL/FAX 番号	
E メールアドレス	

参加申込書送付先： FAX の場合 03-3582-2337

（一社）大日本水産会 魚食普及推進センター

Eメールの場合： miyamoto@suisankai.or.jp

（一社）大日本水産会 魚食普及推進センター

問合せ先： TEL 03-3585-6684

（一社）大日本水産会 魚食普及推進センター

会場案内図：

